3NV情報⑥

第3回シニアースカウト大会 日本ベンチャー'92 『未知への挑戦』

—はばたこう　琵琶湖から—

主会場プログラム

参加スカウトが一同に会すあいばのでは

日本ベンチャー'92に参加するスカウトたちは、あいばのに設けられた主会場およびその周辺で幅広い活動を体験します。主会場プログラムは冒険・文化・探訪・交流・自然愛護などバラエティに富んでおり、基本的技能の習得をねらいとしています。

(1)全体プログラム

プログラム	会場	内容
開会式	内・基地	主会場、活動基地それぞれの会場ごとに実施する
閉会式	内	参加者全員がアリーナに集合し実施する
ベンチャーフェスティバル	内	参加者全員が集い、演奏や歌で大会を盛り上げる楽しいステージショー
活動隊編成式・解隊式		実施要領に従い、各基地および野営区で実施する
国旗儀礼	内・基地	主会場では各SCからの代表スカウトが、毎朝国旗を掲揚、毎夕降納する

(2)個人参加（バディ）プログラム

A群：スカウト精神

プログラム	会場	内容
信仰	内	自らの信仰に基く礼拝を行い、9日の宗教儀礼に参加する
奉仕活動	全	大会の全域で、大会運営への奉仕、環境美化や衛生に務める
国際友情	全	他の野営区やベンチャーミュージアムを周り、全国、海外の仲間と交流を深める

B群：スカウト技能

いかだ作り	外	結索の技術を駆使し、筏を組み上げ湖へ漕ぎ出す
オリエンテーリング	内	読図、コンパスの使い方マスターコース
星のロマン	内	反射望遠鏡による星の観察。天文章に挑み、夜空に想いを馳せる
フィールドアーチェリー	内	基本を体得し、コースを巡ってポイントを競う
アドベンチャーコース	内	ロープ渡り、斜面のぼり等の障害コースを走破
自然観察	内	饗庭野の自然に親しみ、その生態系の学習を通して自然愛護を考える
ハンディキャップトライアスロン	内	身体障害者に対する理解を深める体験を3種の競技を通じて行う

C群：冒険

登山	外	比良山に挑む準本格登山コースに挑戦する
ハイキング	外	箱館山へハイキング。体力に応じた手段で山頂へ。琵琶湖が一望できる
サイクリング	内・外	様々な障害を設けたコースでポイントを競う
ペーロン	外	20人縦並びの長い船で競争。息を合わせて湖面を走る
ウインドサーフィン	外	水の上に立ち上がり、風といっしょに湖を滑る
交通安全教室	内	安全運転の基本を学び、モーターバイクで悪路走破に挑戦する

※インストラクター・用具・会場等の手配が可能であれば、「カヌー」「ヨット」「草スキー」「パラグライダー」「マウンテンバイク」を追加する

D群：文化・社会・趣味

湖国研究	外	琵琶湖の科学調査と共に秘密を辿る小旅行
地球開発村	内	私たちを取り巻く環境・健康について展示および体験・学習で学ぶプログラム
新聞発行	内	大会の現地即時情報紙を力を合わせて発行・配布する
コンピュータ	内	専門家の指導によるコースに参加し、その活用を楽しむ
クラフト	内	竹細工やサンドアート等の手工芸に挑戦。記念品やミュージアム出展を狙う
電気・ラジオ	内	電気の基礎からラジオの構造を学び、実際に工作する
実験コーナー	内	日頃できない大実験から身近な材料の珍しい実験まで。体験編＋実験編
ベンチャーナイト	内	シニアーが運営するコンサート。外国スカウトの出演も魅力的。
歴史探訪	外	京都を中心としたテーマ別5コース選択で歴史スポットを訪ねる
VTR・写真撮影	内	ビデオおよび写真撮影・現像等の技術を学び、大会の記録とする

LOOK WIDE NEWS KYOTO SUNHAPCHI SENIOR SCOUTS

広角ニュース

14.MAY.'92
No.007

4月18日隊集会　21：00～ 団ルーム

出席者（7名）徳岡龍彦　千種健太　八木立夫　出口浩平　伊藤良崇
末吉央伯隊長

欠席者（5名）西脇淳人　切島圭一　今井清次(休隊中)　角井輝信・遠藤亘副長

内容　①進級課目の考査。（ＳＳ章）

1．基本　（3）物を大切にすることに心がけ、金銭の出納を記録する。
（4）シニアースカウトとして、取り組みたい活動と将来の負をまとめ、隊長に提出する。（当隊ではルックワイドの読後感）

八木立夫君 出口浩平君 伊藤良崇君の3人は以上の考査を受け合格、これをもって、ＳＳ章全課目修了。

徳岡龍彦君 千種健太君の2人は過去にＳＳ章の記章を授与されていないことで同様に考査を受け追認された。

②「シニアー章」の授与　おめでとう！　弥栄！

八木立夫君 出口浩平君 伊藤良崇君。追認＝徳岡龍彦君 千種健太君。

③隊費の徴収。伊藤4・5月分1000円、八木・千種5月分500円

④年間プログラムの中に、自己の技能章取得プランを組入れる。

「進歩の手引き」を技能章取得に役立てるよう、各自1冊ずつ貸与。

目標は今年暮れまでに「隼章」の取得。徳岡龍彦君が隼章に最も近い。

定例隊集会の案内

5月隊集会は16日（土）21:00より団ルームにて行なう。

内容 ①3ＮＶ(第3回日本ベンチャー)'92について。
参加活動基地の決定通知の伝達

②北山地区ＢＳ救急法講習会(6/20～21)について。

③隼章修得プロジェクト

④大谷スカウト名誉奉仕訓練参加の報告。西脇君より

⑤ＢＳ隊の援助について

ＳＳ手帳、進歩の手引き、筆記具等を忘れないように

38 HEAD LINE NEWS

下坂ＢＳ隊長が、交通事故で大ケガ。

４月２３日夜 御池通木屋町交差点をバイクで通行中、信号無視の飲酒運転の乗用車にはね飛ばされ、更にその車に引かれるという、大事故に遭遇。命に別状はなかったものの、左大腿部完全骨折、右手首骨折（ヒビ）の全治３ヵ月の重傷を負った。入院先は寺町今出川下る「小柳病院３０２号室」。これにより、４月の隊集会は急きょ中止となった。　　**心よりお見舞い申しあげます。**

副長が不在の現在、ＢＳ隊の活動が危ぶまれる状態となり、ＳＳの援助に多大の期待がかけられている。たよりにされてまっせ！

当面はＳＳ隊長が、その代理を勤めるということです。さあ えらいこっちゃ。

とにも かくにも。みなさん！ 車にはどうぞお気を付けください！

ＢＳ隊グリンバー会議の御案内

５月１５日（金）１９：３０より団ルームにて。

隊付・上班のＳＳも参加します。重要事項の会議です。

これに先立ちＢＳ隊長のお見舞いに行きます（18:30小柳病院前集合）

INTRODUCTION

ルックワイドの読後感

ルックワイドを読んで　　伊藤 良宗

人生とはなにか、自分にとっては経験だと思います。文中にあるように食べて飲んで楽しくやろうということも経験だと思います。神は一人一人おこまでなる経験をできるようにされているのだと思います。最初の経験が誕生であり、人生最後の経験が死去ということはいうまでもありません。僕はまだ人生最初の経験をふくめて十五年間の経験しかつんでいませんが、それでも少しは経験をつめたと思います。しかし、まだまだ経験をつんでいる必要なのでがんばりたいです。著者であるローレンス・ストリンガーは人生は大きな冒険であると書いています。僕ははじめに書いたように経験だと思いましたが、著者のことも一理あると思いました。著者が考える冒険とは、この先どのようなことがあるかわからない、何かに挑戦するという意味で書いたのだと思いました。そのほかにこの文章で印象に残った文は、「存在とは、地球上に与えられたわれわれの場所に対してえれう家賃である。」です。今まで存在をやらされている、しかたなしに存在をするという考えでした。しかし、この文を読んで考え方がかわったと思います。もう一つ印象に残ったことは、ナニオの少年が馬から落ちて骨折を折った時、「小馬がけがをしなくてよかった。…」という言葉を残して数日後に死去したことです。自己を捨て他人へのやさしさと思いやりの気持ちがすばらしいと思います。自分もこの少年のようにたくましく生きていきたいと思います。

ルックワイドを読んで　　八木立夫

人生とはなにか、とはじめにあって、人生の悪い例がある。「さあ、あすのことなんかくそくらえだ。食べてのんで、楽しくやろうや。」本当に、こんな生活ができたら、楽だろうし、楽しいだろう。そんな生活も、たまにはいいが、いつも、いつもだったら、最後には、あきがくるだろう。水戸黄門の歌にもあるように、やっぱり、人生は、楽もしたり、苦しんだりもしないといけないと思う。また楽ばかりしていたら、なにもしないと、木にぶら～んとぶらさがっているなまけものみたいになってしまうだろうと思う。楽ばかりしていると、使わない部分が、退化していってなくなってしまうと思う。たとえば、頭を使わないと、だんだん頭がしぼんでいってなくなってしまうかもしれない。もし、そうなったらたいへんだから、やっぱりさぼってはだめだと思う。だから、自分にふりかかってくる試練は、ひらりとよけずにぶつかって行こうと思いました。だから、手はじめに、進学をがんばって取ろう決めました。

自分自身の経験について　　山口 清孝

今までボーイスカウトでしていろいろな活動に参加してきた。隊ゲーム、ジャンボリー、野営などのはうし。みなこれからの人生たついてなくてはならない経験であり、今までにとって十分に役にたってきたと思う。

しかし、今まで参加した中で途中で参加したことが何回あるだろうか。いや、自分の心の弱の方にはいやだ、だるい、行きたくない、そういった気持ちがあったように思う。このルックワイドという文章の中で、いくつかのはうしの中、自己犠牲の心の例があげてあった。その中でも1番心につこったものは、乗馬中に骨折を折った少年の実話だ。その少年は数日後死亡してしまうが、死亡する前にはげしい発作にみまわれた。その時少年は母親にこうつたえたという。

「小馬がけがをしなくてほんとによかったね、ぼくだけで！」、後光遍有と同じように、この「ぼくだけで！」という言葉に強く心をつたえた。そしてその後、自分に問いかけてみた。自分はこの少年のように最後まで自己犠牲の気持ちを持ち続けのれるだろうか。いや持ち続けられない。もし自分がこの時、この状況にれされたら、絶対にだれかをにくみ、その為をにくむと思う。後光遍有やクリビーというクラブに入っているが、このスポーツでも自己犠牲の心、人を思いやる心などを教えられた。

「1人はみんなのために、みんなは1人のために」。

こういった気持ちを大切にし、こんごの学校生活、クラブ活動、ボーイスカウト活動、そしてこれからの人生に役立てていきたいと思う。

HOT NEWS

「山川裕之」氏が５月１０日にめでたく

結　婚　されました。　おめでとうございます。

カブ・ボーイ隊のリーダーでお世話になった人も多くあると思います。

お相手は同じ年の和子さん。あつあつカップルの誕生でーす。

今井君の電話番号が違っていました。訂正し改めて連絡網を掲載いたします。

新隊編成と　新電話連絡網　（4/1より）

チーフ　　隊会計係

徳岡

末吉